

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

月刊

# 同友

Monthly Communication Magazine DOYU

2016 January

01

Vol.594

03 **【特集】** 中小企業は経済を牽引する力であり社会の主役である  
**りょうちく支部** 地域に根ざす企業づくりを  
中小企業による地域づくりを  
～支部設立運動から現在～

06 21世紀型 自立型企业づくり  
情報は現場にある  
～物語を語れる商品づくり～  
エスエス産業株式会社

09 エネルギーシフトが新しい経済社会をつくる

12 1月行事案内

14 自社商品・サービス紹介

15 第7回 理事会報告



### よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

### よい経営者になろう

同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収しこれからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

### よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

## はみだし Report

### 21世紀型 自立型企业づくり

(本誌p.06掲載)



エスエス産業株式会社  
代表取締役社長  
**西藤 興治** 氏 (東支部)

ソフトボールや懇親会などラフな装いでお会いさせていただくことが多い中、とても温かみのある方だと思っておりました。

東支部で開催しているブロック対抗のソフトボール大会では毎年、元日体大のスポ根を魅せてくれます。とてもアクティブな動きでまだまだ現役!!

そんな中、度々西藤さんの会社の社員さんもお目にかかっておりました。社員さんは、積極的に周囲の同友会会員や会員のお子さんなどに声をかけ、遊んでいたたり…

そんな姿を見た時に、どんな指針で社員さんとの交流や社内環境を整えていらっしやるのか…とても興味が湧きました。

本当に西藤さんをはじめ皆さんステキな方ばかりなんです!! 実際、会社訪問させて頂いて一瞬で感じました。

皆様の積極的な眼差しは社内にも広がり、一人一人の社内での役割をきっちり果たしている。すべての方々のストーリーやテーマを見いだしてどんなお役に立てるのか? を考えるという取り組みをお聞きした時に、「あ…これだ。」と思いました。

今後も、西藤さんと社員様方のキラキラが止まらない! そんな会社の雰囲気でした。

記事: 株式会社UI communications 堀 紗弥香氏 (東支部)

## 今月の表紙

撮影・文: 富谷 正弘  
(株式会社コスモイメージ/玄海支部)



今回、取材したのは朝倉市の山田堰です。山田堰は、筑後川の水を農薬用水として利用するため、江戸時代に造られました。せき止められた水は筑後川の水門を通過して堀川を流れ、8km以上離れた田畑まで送水されます。水門部分(取水口)は、患蘇八幡宮の御陵山から連なる岩盤を人力でくり貫いて造られた切貫水門となっています。

取水量の安定を図るため、100年以上の歳月をかけて改良をかさね、寛政2(1790)年の工事によりほぼ現在の形になりました。

平水時は筑後川の本流となる「舟通」や「土砂吐」部分が水が流れ、増水時には石畳の水が超えることで堰の安全と取水量の安定を保っています。

山田堰は、自然の地形を巧に利用した貴重な農業土木遺産です。筑後川と共に数百年の時を越えてきた先人の知恵の形です。水面下に隠れる部分を含め、最長部172m、総面積25,370㎡の構造物です。

2012年には、土木学会選奨土木遺産に選定されています。



山田堰周辺地図



地上から見た山田堰



土木学会選奨土木遺産



地上から見た山田堰

「私たちの逸品」  
農業土木遺産 山田堰 (福岡県朝倉市)  
(ドローン空撮)



りょうちく支部

地域に根ざす企業づくりを  
中小企業による地域づくりを  
支部設立運動から現在へ

りょうちく支部の活動  
（同友会理念と地域の特性を踏まえて）

りょうちく支部長 里村 博  
代表者 里村 博



りょうちく支部 支部長 里村 博

りょうちく支部は設立して5年目を迎えました。設立当初は久留米支部から移籍してきた会員が中心でしたが、今では生え抜きの会員が4分の3を占めるようになりました。

会員数はまだ少ないですが、若い会員を中心にあすなる塾や経営

指針作成セミナーへの参加が多く、ここ2年は支部例会で「りょうちく版あすなる塾」を開くほどになりました。これは経営指針作成セミナーの参加者が自身の学びや体験を報告し、まだあすなる塾に参加していない会員やゲストに対してあすなる塾への参加を呼びかけるものです。このような取り組みが経営指針作成セミナーへの参加につながっていると思います。

りょうちく支部は旅館業と農業法人の会員が40パーセントを占めるという特徴を持っています。これは地域の特徴でもあるので、観光と農業の連携、また筑後川を挟んで国(旧国域)が違うということもあり、交流が少ない朝倉市とう

きは市の連携を行政を巻き込んで進めることが両地区にまたがるりょうちく支部の役割ではないかと考えています。

活動内容は他支部に引けを取らないと自負していますが、会員数は久留米支部から移籍した会員が久留米支部に戻ったこともあり、

伸び悩んでいます。

りょうちく支部の中心となる朝倉・うきは両市は事業所数、人口ともに大きく減少している地域です。厳しい環境の中でお客様に選んでいただける企業になるためにも、辞書の一ページとなる仲間を増やし、より活発な支部活動ができるようにしたいと思います。

りょうちく支部設立の思い

りょうちく支部初代支部長 東亜染工株式会社 代表取締役社長 鐘江 守



りょうちく支部1周年例会であいさつをする鐘江守氏

りょうちく支部設立の経緯

2001年、私が久留米支部長の折、山内清美前事務局長や福友支部の末政ヒロ子氏(株)ポロン企画(代表取締役)と触れ合うごとに、お互いに浮羽生まれであることがわかりました。また、福岡同友会設立の中心であった、鳥越俊雄先輩の出身地でもある浮羽地区に支



部がないのいかなものかと思  
いめぐらしていました。

数年後、会員増強本部にて、地  
域づくりのための空白地域の取り  
組みが始まり、県南地区会で浮羽  
と八女とを候補として検討した結  
果、浮羽に支部の設立をめざそう  
ということになりました。そして  
2010年に、久留米支部に浮羽  
ブロック会をつくり、本格的にス  
タートしました。

### 支部設立準備会の開催

当時の久留米支部長をリーダー



りょうちく支部設立準備会特別講演会の様子

に、三役会を中心として、遠路1時  
間以上かけて吉井町へ行き、毎月  
集まりました。集まりでは、勉強  
会を企画するなど、設立に向けて  
検討をし、2010年11月に第1  
回設立準備のための特別講演会を  
開催しました。報告者に筑邦銀行  
の井手和英会長を招いた講演会は、  
会員だけでなく行政、金融機関、ゲ  
ストを合わせて100名以上が参  
加しました。ここではずみができ、  
志のある会員やゲストで準備例会  
を4回開催しました。

### いよいよ支部設立

2011年4月、会勢が20名で、  
設立の承認をいただき、支部とし  
てスタートしました。

その折、支部名は、筑後川をまた  
ぐ朝倉(筑前)と浮羽(筑後)の両地  
区を考え、みんなで検討し、良い地  
区でもある「りょうちく支部」と決  
定しました。そして、設立記念講演  
会では、地元出身である行徳哲男  
氏より講演いただき、全県からた  
くさんの仲間の参加があり、感動  
のスタートをさせていただきました。

### 増え続ける地元会員

その後も年々内容が充実し、地  
元会員中心に移行が進み、全員参  
加型の例会が続ぎ、自主・民主・連  
帯そのもので、例会も56回を数え

るに至りました。若い会員の實力  
が光り、活力のある支部になった  
ことを誇りに思い、今後さらに地

域に根づいた同友会をめざしてい  
けることを信じ、皆様に温かいご  
指導をお願い申し上げます。

## 「経営つて、農業に似ていますね」 「農業法人が経営指針書を作成した」

りょうちく支部副支部長 株式会社カラーリングファーム 代表取締役 榎原 憲一

### 同友会との出会い

農業後継者として家業を継ぎ、  
4年前に個人経営から法人化した  
時期に同友会と出会いました。そ  
の時は、会社になったものの、経  
営って何をすればよいのかよく分  
からないぼんやりしている状況で、  
知人の紹介であすなる塾に参加し  
ました。そこで経営指針の存在を  
知りました。

えを指針書を通して伝えること  
です。それにより、以前より社内の雰  
囲気が前向きになってきたと感じ  
ています。そして指針書に書いた  
ことは実行に移すように自分の励  
みにしています。

### 経営指針作成に向けて

経営指針を作りたいと思いつつ同友  
会に入会し、すぐに第8期経営指  
針作成セミナーに参加して作成に  
取り組みました。セミナーに参加  
したことをきっかけに、社内では  
表し、それから少しずつ手を加  
えています。

現在も指針書を十分に活用出来  
ているわけではありませんが、実  
践する中で取り組んできたことは  
朝礼での指針書の読み合わせや、  
社内学習会の中で自分の思いや考

### 経営指針書を作成して見えたもの

現在の課題は、財務計画の目標  
数値があやふやな所です。それを  
明らかにするために、今期は農場  
に関する数値、作物の圃場別の生  
産量や作業時間、品質、生産性など  
の把握を行っています。また、決算  
書を公開し、社員さんと自社の数  
字の確認をしています。具体的  
な数字の把握で自社の課題が見え  
てきているように感じています。そ  
して、これまでは決算が終わらな  
いと実績が分からないという状  
況でしたが、月1回の定例会で実  
績、今後の計画を確認し、部門間の  
連携がスムーズに行くように進め  
ています。栽培面でも今までは作



物を作りっぱなしだったので、結果を検証することで、栽培技術の向上や蓄積につながっていると  
 思います。  
 種をまいて、肥料を与え、雑草を除去し、何よりも愛情を注いで育

## 共に「よい会社」「よい経営者」「よい経営環境」をめざす

りょうちく支部副支部長 写真の松屋株式会社 代表取締役 松尾 勝彦

**りょうちく支部の「仲間づくり」**  
 私は、同友会に入会して3年になります。今回、私たちが行なっている「仲間づくりの取り組み」について書かせていただきたいと思います。

私は自社で2つの小さな経営勉強会を行なっています。そこで一緒に勉強していて、興味のある方に同友会の入会を勧めています。その結果、自分で言うのもなんですが、モチベーションの高いメンバーが入会してくれていると思っています。

現在、自社のスタジオを使って「経営戦略会(私主宰のマーケティング勉強会・月1回)」と、同友会の先輩の林忠範氏(りょうちく支部所属)に教えていただいている「咸宜塾(財務の勉強会・月2回)」の勉強会を、撮影のない時間を使って行なっています。私主宰の勉強会「経営戦

ていく。  
 「経営って、農業に似てますね」。少しずつですが経営指針書を通して、自社のレベルアップにつなげていきたいと考えています。

略勉強会」は、私が14年勉強してきたことを、いろんな教材を使って勉強しています。



「咸宜塾」(財務の勉強会)の様子

## 経営勉強会を始めたきっかけ

私は、14年前に取引の大きかった結婚式場の仕事が無くなってしまい、経営が苦しくてマーケティングの勉強を始めました。それまで写真の勉強しかしてきてなかったのですが、マーケティングを勉強し始めて2年後に売上が3割アップしました。

しかし、急激な売上増に、社内が混乱して、スタッフが全員退社するということを経験しました。そして、「ランチェスター戦略 竹田ビジネスモデル」に出会い、学ぶことで、会社を経営するためには、集客だけではなく、会社全体を俯瞰して見ることの大切さを教えてもらいました。

そんな中、4年前に1人で勉強するより、地元の若い経営者と勉強したいという思いが強くなり、「ランチェスター戦略 竹田ビジネスモデル」の資格を取りました。フェイสบックで一緒に勉強できる地元の仲間を増やしてきました。

## 「仲間づくり」で大切なこと

実は、私は以前、会員増強に対して苦い経験をしています。それは18年間お世話になっていた業界団体でのことでした。「無理に会員増強をすると、会の目的がズレていくこと」を経験しました。会の目的

や理念を理解せずに入会してしまうと、会の運営にズレが生じ、結果的に会の勢いが減速することを経験しました。

同友会に入会して学んだことは、「戦略」や「戦術」より「目標・目的・想い・志」の大切さです。経営指針書による、自分の未来を描く大切さを知りました。これからも、地元の人々の方にもっと同友会を紹介し、入会してもらい、お互いに「よい会社」「よい経営者」「よい経営環境」をめざして切磋琢磨している仲間を増やしていきたいと考えています。





# 情報は現場にある

## 物語を語れる商品づくり

売上を上げて利益を確保することは企業の宿命。経営理念を具現化するために自社の強みを活かして、取るべき戦略が明らかになるのです。



### さんぎょう エスエス産業株式会社

代表取締役社長

## さいとう こうじ 西藤 興治 氏

東支部

創業 1963年10月  
住所 福岡市東区松田1-10-16  
電話 092-621-6531  
従業員 82名  
<http://www.ss-sangyo.co.jp>  
梱包包装資材の販売。DIY商品の企画、販売・包装に関する資材全般と機械販売。



### 会社概要

「ちょうど私が生まれた昭和38年10月に、父・西藤 悟が独立して当社の前身・エスエス商会という個人企業を立ち上げました」と語り始めたのは、エスエス産業(株)の代表取締役 西藤興治さんです。モーターゼーションの発達をきっかけに、福岡市の店屋町において事務所兼倉庫兼自宅からのスタートでした。社名の由来は、父の名前の頭文字かと思いきや、スタンド・サービスにあります。はじめは、自動車用のオイルやバッテリー液、ウェス、粉石けんなどを仕入れ、販売していました。夏場にバッテリーが上がってしまつて蒸留水を補充するため、それが大当たりしました。秋と冬に何をしようか考えてい

取材 広報部  
文章 菅原 弘(東支部)  
写真 広報部



倉庫内の様子



たときに、知り合いの業者から段ボールや荒縄などを仕入れ、それらを梱包材として販売してみると、好評を得ました。叔父(父の弟)との二人三脚で売上を伸ばし、昭和45年に法人化させました。昭和53年にはプライベートブランド『ハートマーク』

を立ち上げ、売上は一気に伸びていきます。そのアイテム数は400に上ります。県内の有力なDIYやディスカウントショップの社長が筑豊出身で、同郷のよしみということもあり、実績を伸ばしていきました。その後、包装資材・梱包資材の販売や合成樹脂製品の輸入・販売、DIY製品の企画販売などの事業

を展開し、昭和61年、現在の地に移転してきました。

## 西藤さんの生い立ち

スポーツ好きの興治少年は、スポーツ少年団に属し、剣道や水泳、アイススケートなどを楽しんでいました。高校時代は野球で甲子園を目指していました。

体育の教師を志すようになった西藤さんは日本体育大学へ進みます。大学ではソフトボールを専門としていました。恩師の勧めで、新設された高校で非常勤講師として働いていました。

やがて父親(当時の社長)との話し合いで、教師の道をあきらめ、事業を継ぐ決意をします。まずは『他人の釜の飯』を食うために、父親の知り合いの会社で営業の修行に出ます。「5年ほどみっちり鍛えられました」と西藤さんは語ります。そして平成6年、30歳の時に後継者としてエセス産業に入社するのです。

## まず実績を作らないことには…

ヒラの営業からスタートしました。ベテラン社員が多い中、まず自分が実績を作らないことには社内の信

頼が得られないと考えた西藤さんは東奔西走の日々でした。

パブルは弾け、その影響はこの業界にも押し寄せていました。会社の方針は「売れ！売れ！」の大号令。売上は達成するものの、「あー、きつかった」という疲労感だけが残りました。築き上げた売上の数字は、波打ち際に建てた砂の城よろしく、月末という波に押し流され、また新たにノルマが課せられるのでした。

社内では離職する者も多かったと言います。そのたびに中途採用で営業職を補充していました。「売上・利益を確保することは企業の宿命。それはわかります。しかしなんとかが人が定着するような仕組み、有機的な組織ができないものか」と西藤さんは考えるようになりました。

係長・課長・営業部長と昇進するにつけ、その思いは強くなっていきま

した。「包装資材がなければ、お客様の商品は成り立ちません。物流もできません。お客さまに私たちがお役に立っているという喜びを感じる会社になりたいと思いました」。

## 同友会との関わり

「実は会歴は長いんです。平成8年に同友会に入会しています」。係長時代に知人に誘われ入会して



倉庫内作業の様子

ます。しかしその頃は社内で実績を作ることに懸命で、10年ほど休眠会員でした。

「取締役になって、組織づくりをしなければならぬ立場になり、改めて同友会の扉を叩いたわけです。そこで『久しぶりだね』と声をかけられたのが嬉しかったですね」。

同友会で活動するようになり、支部ではまず副ブロック長を務めました。当時は今ほどブロック活動は活性化されてはなく、いわば例会の声かけ係でした。「電話作戦でしたね。東支部は例会の未回答ゼロを推進していました。連絡を取ることで出席率も上がりました。こうした人と人の繋がりは営業に通じると感じました」。

## 経営指針書を作成

平成19年に2代目社長に就任します。そこで経営指針書を作成すべく「あすなる塾」経営指針作成セミナーに参加しました。理念には、





ピッキングされた商品

『創業のおもい』ならぬ『継承のおもい』を込めました。先代の時代からあった社是には、説明文を加えました。

【経営理念】

私達は、お客様の為に存在価値ある企業となり、豊かな人間形成と生活環境を築きます。

【社是】

創意工夫… 価値ある創造と工夫でお取引先様に貢献します。

熱意努力… 若き情熱と努力を惜しまずお客様の発展に貢献します。

まずお客様の発展に貢献します。

敬客愛品… 商品にこだわり、あらゆる資源に感謝して豊かで快適な社会環境を

実現します。

先代の礼節の心を継承しつつ、自分の思いを託しました。

経営指針書は、社内の共通語とな

り、コミュニケーションのツールとなつていきました。

販売戦略

自社の強みは、梱包資材・包装資材などの豊富なアイテムがあるところと、また営業姿勢として、常に現場でいかに役に立てるかというお客様第一主義。社内体制としては営業が動きやすいサポート体制を常に心がけています。

そこで次のような販売戦略を立ちました。

○スケールメリットによるコストダウン

○海外輸入比率を上げるとともに、まだ扱っていないアイテムの導入

○プライベートブランド『ハートマーク』の強化

これらは一見価格競争に巻き込まれるように思われますが、西藤さんはこう説明してくれました。「消耗品である以上、高価な商品は受け入れられません。既存・新規のルートともに徹底したコストダウンで販路拡大・売上アップに『伸び代』があると考えています」。

そして売り方にもこだわります。「自分たちはB to Bで終わっているため、エンドユーザーまで見えていない。どういう現場で、どう使われ

ているのか。さらに現場ではどういう商品が求められているのかを社員とともに勉強しようと常々言っています」。

同友会においても、建築工事に携わる会員さんがたくさんいます。チャンスを見ては、どのような要望があるのかをヒアリングしていると言います。

そうした声を集約して、提携している協力メーカーと商品開発していきます。「この商品はこうして生まれました」と物語を語れる商品づくりに取り組んでいます。営業もそうした商品には愛着心が沸き、売る際にも情熱がこもるといふものです。「まさに情報は現場にありますね」。

社内コミュニケーションの重要性

P-I-D-C-Aの循環では、商売になぞらえて、「棚卸(チェック)して、今はどうなの?」と社員に問いかけています。聞き上手な西藤さんは常に社員とのコミュニケーションを大切にしています。こうした活動が、人財育成にも繋がっています。そういう側面が同友会活動にも

見られます。現在、東支部ではブロック長・長(5人いるブロック長の長)として、支部の潤滑油的な存在です。「メンバーに助けられてい



ピッキング作業の様子

ます」と謙遜しますが、その温厚な人柄で高い信頼を得ています。

「同友会は刺激がありますね。同じ悩みを持つ経営者と本音で語ることも多いと言います。勉強会にも積極的に参加しています。「先日社員が働きやすい環境づくりのために、経営労働委員会に行つて就業規則の勉強をしました」と語ります。

お客様の役に立つ会社

取材の最後に西藤さんの考える自立型企業についてお聞きしました。「自分で物事を考え、人のため、会社のために役に立つ人財を育てていく会社じゃないですか。お客さまが求めていることを聞いて、それを実行していく…そんな会社でしょうか」。取材協力ありがとうございました。



# エネルギーシフトが新しい経済社会をつくる ～中小企業が主役の時代に～



広報・情報化交流会 グループ討論の様子

## 2015年度広報・情報化交流会

(2015年11月7日(土)～8日(日) 原鶴温泉 泰泉閣)

報告者: 平田 美穂 氏 (中小企業家同友会全国協議会 事務局長)  
菅原 弘 氏 (ノアノア 代表者 広報部会長・東支部)  
齋藤 純 氏 ((株)インフィニティ 代表取締役 情報部会長・博多支部)  
田村 治夫 氏 (東邦エネルギー(株) 代表取締役 久留米支部)

エネルギー問題は中小企業経営の根幹である

冒頭、樋口広報情報化推進本部長は、2015年7月に岩手県で開催された中同協の定時総会において、「中小企業家エネルギー宣言(案)」が討議資料として提示があり、持続可能な社会づくりのためにエネルギー問題は中小企業経営の根幹であることに触れました。

特に日本は、エネルギー自給率6%と海外依存度が高く、その資金のほとんどが海外へ流出しています。そこで、再生可能エネルギーを地域循環型にすることで雇用が生まれ、お金が地域の中で循環する社会が生まれます。私たち中小企業家が社会を変える運動を通して地域再生をしていく必要があると訴えかけました。

エネルギーシフトをどのように進めるのか

中同協の平田事務局長は「エネルギーシフトが新しい経済社会をつくる」～中小企業が主役の時代に



に（中同協発刊書籍）を教材にして同友会がエネルギーシフト推進に取り組む背景と意義について触れました。

民間研究機関「日本創成会議」の増田レポートによると、消滅可能性都市が人口減少とともに896もあると言われていますが、この問題に同友会がどう関わっていくのかということが重要になります。

エネルギーシフトの三本柱、「エネルギーの使用量を減らす」「省エネ」「エネルギーの利用効率を高める」（地域暖房とコージェネレーション）、「地表の上のものを使って発電する」（再生可能エネルギーの利用）により、地域にお金を留めて循環させる必要があります。

エネルギー宣言を提起した背景には、中同協東日本大震災復興推進本部（REES）の取り組みがあります。その取り組みで地域再生と国の政策を研究するグループとエ



広報・情報化交流会で報告する  
平田美穂中同協事務局長



広報・情報化交流会で報告する  
田村治夫氏（久留米支部）

ネルギー問題研究グループが生まれました。一度原発事故が起きた二度と故郷には戻れないという事実と被災地の会員企業の企業家精神から学び、その教訓を経営に生かすべく、ドイツ、オーストリア視察での学びとなり、エネルギー宣言への取り組みに結びつきました。われわれ企業家としてエネルギーシフトをどのように進めるのか。5つの提案がありました。

- 1、エネルギーや環境方針を経営指針に位置づけよう（「企業づくり・仕事づくり」の視点）。
- 2、地域づくり・条例運動にエネルギーや資源の地域循環も意識して推進しよう（「地域づくり」の視点）。
- 3、環境や地域にやさしく、エコで質の高い暮らしを目指す商品・製品・技術・サービス（「暮らしづくり」の視点）。
- 4、エネルギーに関わる中小企業



村上 敦氏

広報情報化推進本部 副本部長  
貞池 龍彦（中央支部）

の視点）。

- 5、中小企業家エネルギー宣言（案）とハンドブック学習と討議を（「同友会づくりの視点」）。

日本と地域の未来を切り開くのは理念をもとにした旺盛な企業家精神です。「道なき道を」開く、同友会運動がそこにあるからとまとめました。そして、エネルギーシフトは「仕事になる」を合言葉にどんな仕事を生み出していたかといくとエネルギーを送りました。

参加したりようちく支部のみなさんも、温泉の温度を利用したコージェネレーションシステムやバイオへの展開など多くのヒントを得られた、参加してよかった、と声が上がりました。

「エネルギーシフト」はアイデアと連携を駆使してビジネスチャンスになる！

はじめ、エネルギーシフトと聞いて、「反・原発？」「省エネ・コスト削減？」「再生可能エネルギー？」「スマートハウス？」などをイメージしていました。報告を聞いていくうちに、確かに前述の要素もありますが、村上氏の報告の強調したいところは次のようになります。

- ・エネルギーについて日本は技術を変えた、ドイツはお金の流れを変えた
- ・お金が外に流れない仕組みを作ろう
- ・地域の経済の活性化を図れる

地域で活かす新しいエネルギー  
ヒロシマ・ナガサキ・フクシマが

# エネルギーシフトで 地域が変わる、 日本が変わる！

(2015年10月22日(木))  
福岡県中小企業振興センター301会議室)

報告者:村上 敦氏 (オフィス村上 代表者)





菅原弘広報部会長

ある国として、新しいエネルギーを考える必要があると思います。月刊同友で『地域と同友会』を特集した際に、「地域における大手企業の利益は本社のあるところに吸い上げられ、地域には循環しない。自社の強みを生かし、また連携して循環型の地域を作ろう」という意見が出ました。

省エネや新しいエネルギーの創出で素晴らしい実績を上げている会員もいます。取材で会員企業を訪問する中で、ゴミからエネルギーを創出するといったバイオマスの取り組み事例も耳にします。エネルギーシフトの取り組みはビジネスチャンスになります。強みを生かし、アイデアと連携で新しい仕事づくりができます。

エネルギーシフトにより、多くの費用がかかるという、いわゆる「合成の誤謬」になってはいけません。そこで、今後広報部(月刊

同友編集部)として「会員企業の長期計画に『省エネ』を盛り込む呼びかけをする」、「エネルギーシフトの事例を集め、発信する」、「産官学金の連携の情報を発信する」といったことを、月刊同友を通して発信していきたいと思っています。

広報部会長 菅原 弘東支部

## 2つの エネルギーシフト 勉強会を通じて

エネルギーシフトは今求められている

世界では、化石燃料が枯渇に向かい、気候変動による低炭素型経済へのシフトに迫られています。しかし、日本のエネルギー事情と云えば、他国よりも割高で輸入している石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料や、放射性廃棄物の処理方法が未だ見えず不安が隠せない原子力発電など、相変わらず海外への依存体質から抜け出せていないのが現状です。

このような他力本願的なエネルギー源への依存は、減らしていく必要があります。日本は、海に囲まれ、山や川も豊かで、四季もあり、

自然環境に恵まれています。太陽光や風力、水力、地熱など再生可能な自然エネルギーや、有機性資源のバイオマスへの切り替えによる自力本願的な取り組みの方が適しているはずですし、蓄電を強化した電力の供給力調整や需要調整も効果的ではありません。

同友会では、環境テクノロジー先進国のドイツを視察して、エネルギーシフトへの具体的な取り組みにも学んでいます。地形や気候や建物は異なっており、そのまま日本に取り入れるのは難しいかも知れませんが、環境テクノロジーや計画を迅速に実行に移す、即断即決型の統合的な行政機関の姿勢には驚かされました。

### 環境経営について学びを深める

『中同協発刊書籍『エネルギーシフトが新しい経済社会をつくる』における、全国同友会メンバーによるエネルギーシフトへの取り組みの事例から多くが学べます。また、11月の広報・情報化交流会では、福岡同友会メンバーの高度な専門技術や豊富な経験を始め、社会性やビジネスの先見性を持った取り組みにも感心させられました。

業種・業態や企業規模の違いの他、直接的な効果や間接的な効果の違いもあるでしょう。しかし、取り



齋藤純情報部会長

組み方によっては売上の拡大や経費の削減につながった結果、利益が増大するかもしれません。あるいは、企業のイメージアップにつながった結果、売上が拡大するかも知れません。日本らしく、九州らしく、福岡らしく、エネルギーシフトをビジネスにつなげる、そんな環境経営の目線が、新しい環境ビジネスを生み出すかも知れません。

### 環境経営の学びと実践と成果を広く伝える

福岡同友会のWebサイトを通じて、福岡同友会の組織を強化し、対外的にPRして仲間を増やし、メディアを通じて地域社会に広く活動情報を発信する情報創造の一环で、環境経営の学びと実践と成果を広く伝えていきたいと思っています。

情報部会長 齋藤 純(博多支部)



21 木 18:00~21:30

## 福岡地区 2016年新年祝賀会

### 「どうなる、どうする2016年!？」

～日本経済、地域経済の動きを見据え、自社経営の展望を描こう～

■ ホテルオークラ福岡 福岡市博多区下川端町3-2 ☎092-262-1111

■ 山口 義行 氏 立教大学経済学部 教授



本年度、福岡地区会の新年の企画は、「新春講演会」から「新年祝賀会」に名称を変え開催いたします。昨年度までは、講演会だけの企画としておりましたが、講演会後に賀詞交歓会を企画いたしました。第1部の講演会で学び、第2部の賀詞交歓会で福岡地区の支部の垣根を越えた会員交流を深めていただきたいと思います。また、第2部の賀詞交歓会には来賓として行政機関、金融機関等の皆様にもご出席していただく予定です。大いに懇親を深めていただければと思います。皆様のご参加、心よりお待ちしております。

■ 参加費 記念講演会：無料 賀詞交歓会：5,000円

22 金 18:00~  
(賀詞交換会 20:00~)

## 筑豊地区 2016年新年祝賀会

### 共に手をつなぎ、輝く地域をつくろう!

～誇れる故郷の存続を目指す60名の漁師との未来づくり～

■ のがみプレジデントホテル 飯塚市新立岩12-37 ☎0948-22-3840

■ 坪内 知佳 氏 萩大島船団丸 代表 (山口同友会)



本年度の新年祝賀会では、山口県萩市大島で20隻60人の漁師で組織している「萩大島船団丸」代表で活動している坪内知佳さん(山口同友会会員)に講演いただいた後、交流会を開催します。坪内さんは11月6日に首相官邸で開催された、「一億総活躍社会に関する総理と20代若者との懇談会」に参加された経営者です。当日は、私ども同友会関係の中小企業経営者のみならず、中小企業団体や行政・自治体の職員の皆様にもご参加をお願いし、地域とともに歩む中小企業の姿を知って頂くとともに、新しい年に向けてのスタートの場にしようと思います。

ご多忙の折とは思いますが、何卒ご出席いただきますよう宜しくお願いいたします。

■ 参加費：4,000円

20 水 18:30~21:00

りょうちく支部  
1月例会

### 誰でもできる有機農法(仮)

■ 原鶴温泉 泰泉閣 福岡県朝倉市杷木志波20 ☎0946-62-1140  
■ 八尋 健次 氏 株式会社グリーンハンドユニオン 代表取締役(東支部)

一般的に有機農法といっても、まったく農薬を使用していないわけではありません。しかし、八尋氏が実践されてある農法は農薬や肥料を一切使用せず、自然の力を最大限活用する農法です。更に、トラクターなどの大型農機も必要とせず、農業をされてある方だけでなく、副業として、家庭用として農業に少しでも興味のある方には非常に興味深い内容となっております。

22 金 18:30~21:00

久留米支部  
1月例会

### 融資に向けた『経営革新』のすすめ

■ 萃香園ホテル(予定) 久留米市柳原町87 ☎0942-35-5351  
■ 湊 隆弘 氏 日本政策金融公庫 久留米支店 融資課長

融資における重要なポイントの中の『経営革新』の部分について具体的に解説いただき、なぜ企業の維持・存続に「変化」が必要なのかのヒントをいただき、金融機関の視点から見た経営革新の必要性と注意点を学びます。

25 月 19:00~20:30

国際交流委員会  
1月勉強会

### 「福岡ABCの支援事例から学ぶ、失敗しない海外展開」(仮)

■ エヌビーエス(株) 福岡市博多区奈良屋町5-10 ☎092-263-8833  
■ 権藤 真一 氏 福岡アジアビジネスセンター(福岡ABC) 統括マネージャー

今回は、福岡県内中小企業の海外展開を推進することを目的に平成24年に設立された福岡アジアビジネスセンター(福岡ABC)の権藤統括マネージャーを講師としてお迎えし、福岡ABCの支援内容と、成功/失敗事例から、海外展開を失敗させないためのアドバイスを頂きます。

26 火 18:30~21:00

企業連携推進委員会  
FAST1月例会

### 安価でデータを集積する方法 ~ビッグデータとIoT~

■ 福岡県中小企業振興センター 403会議室 福岡市博多区吉塚本町9-15 ☎092-622-0011

28 木 18:00~21:00

第125回 新会員  
フォローアップセミナー

■ 同友会会議室 福岡市博多区吉塚本町9-15 11F ☎092-686-1234



## 2016年新春講演会・新年祝賀会のご案内

**19 火** 講演会 18:15~20:00  
懇親会 20:15~21:30 **有明支部・大牟田支部合同 平成28年新春講演会**

### 人を活かす経営を元に、 企業づくり、人づくりに取り組む



■ **ホテルニューガイヤオームタガーデン 2階 鳳凰の間**

大牟田市旭町3-3-3 ☎0944-51-1111

■ **岩田 陽男 氏** 岩田産業株式会社 代表取締役社長兼会長(東支部)

九州一円の外食産業に食材を提供している岩田産業(株)は、経営理念・経営指針を深く追求し、更には人間像の価値観を追求して企業拡大の一途をたどっています。そんな岩田産業(株)の現在に至る経緯や苦難を含めた企業の在り方を学びます。

■ **参加費** 講演会のみ:無料 講演会&新春祝賀会:5,000円

**20 水** 17:30 受付  
18:00 開会 **北九州地区 2016年新年祝賀会**

### 「地域を愛し、地域から愛される企業づくりの実践」 ～社風を変えた地元での採用と共育～



大阪同友会と高校とが連携して、生徒と経営者が「働く意義」などを話しあう授業が十年以上にわたって開催されています。これによって生徒・先生・経営者が共に育ちあう機会となり、また、自社の新卒採用が成長への大きな一歩となっています。

■ **リーガロイヤルホテル小倉**

北九州市小倉北区浅野2-14-2 ☎093-531-1121

■ **堂上 勝己 氏** 梅南鋼材株式会社 代表取締役 (大阪同友会 代表理事)

「10年後、社員を100名にする!」「そのために仕事をつくる!!!」

堂上氏は経営指針書の実践で地元高校の新卒採用を行い、この新卒採用が新しい仕事をつくりだす原動力となり、先輩が後輩を教える社風が出来て定着率が上がりました。この新卒採用が業態変化をもたらし、10年ビジョンで、社員の待遇をより良くするために社員を100名にすると宣言し、社員さんと共にビジョン実現に向け前進しています。現在は、地域の学校と経営者が関わる中で、地域の子供を育てる取り組みをしています。皆さんも一緒に、地域からあてにされる企業をめざしましょう!

■ **参加費** 記念講演会:無料 賀詞交歓会:6,000円



# 自社商品・サービス紹介 株式会社ココスイメージ

## 常識を変える新感覚の「空撮」



現在、マルチコプター(ドローン)という無人飛行機がビジネスの種として世界中で注目を集めています。

領域「1m〜150m」という新たな空間領域をどう開拓するのか世界中で取り組みが始まっています。

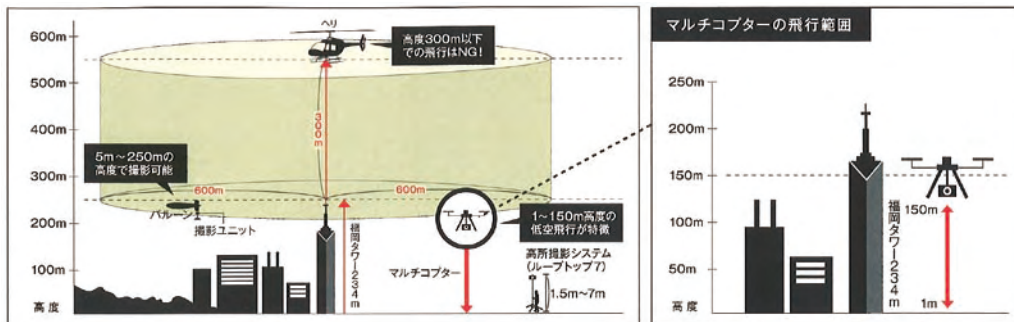
我が社は、10年前にバルーンを使用した空撮業務を開始いたしました。5年程前から、九工大や北九州工専と我が社でマルチコプターの共同開発に取り組んでおりまして、この3年のうちに世界中で研究開発が始まり、低価格化・高性能化が進んだので、共同開発を中止しました。2年前にマルチコプター(DJI・S800)を購入し、空撮業務を開始いたしました。

マルチコプターの用途には①輸送、②農業の空中散布、③航空測量・インフラの点検、④警備・監視、⑤レスキュー活動(消防・警察)、⑥報道・映像撮影などがあります。

我が社では現在、TV番組、

TVCF、プロモーションビデオ、災害調査、マンション眺望写真などの空撮業務に携わっております。近年、いわゆるドローンを使用した事件(官邸落下事件)が多発しており、

### 空撮トータルソリューション



航空法の改正が2015年12月10日から施行され、ドローンの飛行に国土交通相の許可が必要になりました。今後、操縦技能、航空法の知識、気象に関する知識、安全飛行に関する他、損害賠償保険に加入しているか等と厳しい指導が入りそうですが、我が社では、バルーン撮影の頃から「安全・安心」を第一に考え、日本航空協会(JAA)、日本パラモータ協会(JPMA)公認の空撮パイロットによるオペレーター、事前の現場確認、チェックリストによるフライト前点検、風速運用基準による運用と安全第一を心がけております。

これまでの撮影実績は、「とんねるずのみなさんのおかげでした」(フジテレビ)、「ハウステンボス光の王国」(TVCF)、「ダーウインが行く」(NHK)、「日本神社百景」(BSジャパン)、「巨勢川生態調査」(国土交通省)などがあります。

「安心・安全」を第一に考え、独創的でダイナミックな映像を提供できる、オンリーワン「ココスイメージ」をめざします。



**株式会社  
ココスイメージ**  
KOKOS image

〒810-0041  
福岡市中央区大名1丁目2番20号[307]  
TEL: 092-724-1112  
MAIL: tomiya@kokosimage.com  
<http://kokosimage.com>

**作品例**

▲国立博物館  
◀天神のパノラマ写真



# 2015年度 第7回理事会報告

■ 日時：2015年11月25日(水) 14:30～17:30  
■ 出席：46名 (出席率79.3%)

■ 場所：福岡県中小企業振興センター 202会議室  
■ 議長：新内 一秋 (副代表理事)

## 審議事項

- 第54回定期総会について(開催時期及び開催地)  
開催時期と開催地について、5月中旬に福岡市において開催することが承認された。

## 協議事項

- 定款見直しについて  
資料に基づき定款の改定案が説明された。支部役員会で意見集約を行い、次回継続協議を行うこととなった。
- 中同協に関すること(総会運営規程、各地の災害等への中同協の対応)  
中同協幹事会で検討されている総会運営規程及び災害等への中同協の対応の考え方について報告された。

## 報告事項

### <各地区会の動き>

- 福岡地区  
11月11日に開催した金融機関との懇談会の開催報告が行われた。
- 北九州地区  
福岡ひびき信用金庫の各支店との懇談会の開催報告が行われた。

- 筑豊地区  
9月28日に田川市中小企業振興基本条例が制定された。田川支部準備例会に京都大学の岡田教授を招いて条例について学んだ。それに先立ち田川地区で知る会を開催し、28名のゲストが参加した旨報告された。
- 県南地区  
10月に県南地区センターを開所し、各方面にも開所報告を郵送し、今後訪問していく予定。空白地域にも積極的に訪問し、会員を増やしていきたい。

### <会員企業のうごき>

#### ■ 表彰

##### 【平成27年秋の叙勲】

- [藍綬褒章] 公共の利益に貢献した人  
全国納税貯蓄組合連合会副会長  
坂本歯科医院 院長 坂本 文比古(西支部所属)

##### 【2014年同友エコ 受賞】

- 外部審査委員賞B部門およびCO<sub>2</sub>削減賞△15%  
(株)クリーン春日 藤原 健二(中央支部所属)
- 社員と共に賞A部門  
(株)ヒューマンライフ  
中山 英敬・西原 琢也・高橋 俊治(南支部所属)

※ 理事会報告全文は、e.doyuの文書管理(理事会報告-2015年度)にアップしています。会員の方は全て閲覧できます。

## 福岡県と田川市で中小企業振興条例が制定されました

2015年9月28日に田川市中小企業振興基本条例が制定され、同年10月16日に福岡県中小企業振興条例が制定されました。

福岡県の条例は、中小企業の振興についての目的や基本理念、県の責務や関係者の役割、基本的施策を定めています。基本理念として、「①中小企業者の経営の改善及び向上に対する自主的な取組が促進されること」、「②県、中小企業者、中小企業支援団体、金融機関等、大学等及び研究機関、大企業者、市町村その他の関係機関並びに県民が相互に連携し、協力することにより推進されること」、「③多様な産業の集積、豊富な人材、高品質な農林水産物その他の本県の有する特性が活かされること」、「④小規模企業の振興については、その事業の持続的な発展が図られるよう十分な配慮がなされること」を掲げています。

福岡県の条例は下のURLで見ることができます。

[http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/184549\\_51390287\\_misc.pdf](http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/184549_51390287_misc.pdf)

田川市の条例も、目的や基本理念及び施策等を定め、中小企業者及び関係者や市の責務などを明らかにしています。また、この条例の目的を達成するため、併せて中小企業振興施策に広く意見を反映させるために、産業振興会議の設置が条文に定められています。これから振興会議が設置され、田川の地域づくりについての協議が始まります。

現在、福岡同友会では、田川支部(仮称)の設立に向けての取り組みも進んでいます。田川にも会員を増やしなが、条例に基づいた地域づくりを推進していきます。





月刊

同友

594号

2016年1月1日《毎月1回・1日発行》

頒価/3800円(年間4,500円・送料込み) 会員の購読料は会費に含まれます。

# IT部会活動報告

福岡IT部会 部会長 倉本 明彦

## 九州情報大学での特別授業 (2015年10月31日(土) 12:50~16:00)



「ホンマでっか!? 中小企業」で報告する田浦代表理事

共同求人委員会とIT部会は、九州情報大学の特別授業「コミュニケーションと自己発見Ⅱ」に支援を行いました。

第一部では、田浦代表理事が「大企業とは異なる中小企業の魅力」をテーマに特別講演を行い、70名の学生さん達は真剣に聞き入っていました。

第二部の「ホンマでっか!? 中小企業」では、6人のパネラーと2名の迷(?)司会者、画像音響による演出で、楽しみながら中小企業を知ってもらう企画でした。

テレワークを実践しているIT会社、残業全くなしの建機レンタル会社、ロープ一本で橋や建物にぶら下がって工事する会社などの事例も紹介され、その場でその社長が立ち上がって司会とやり取りするというダイナミックな演出もありました。

学生さんたちは、中小企業やIT企業、地場企業の魅力を楽しみながら受け止めてくれたと思います。

第三部のグループ討論では、同友会の会員がグループ長として進行し、学生の感想を聞き出しながら、質問にもわかりやすく答えていました。

このような授業を通じて、学生の大企業や東京志向だけでなく、もっと広い視野を持つきっかけになったと感じています。

今後も、同友会活動のひとつとして、中小企業の魅力、地場企業の魅力、仕事観、学生時代をどう考え行動するかを、学生さんに投げかけ続けることができると考えております。



「ホンマでっか!? 中小企業」の様子

## 第14回IT部会・全国交流会in博多 (2015年11月6日(金) ~ 7日(土))

6日(金)午前中、各地から集まった16名が博多駅前に集合し、ボランティアガイドさんに引き連れられて2時間ほど『博多街歩き』をしました。

14時から、博多八仙閣本店で全国交流会を開催しました。今回のテーマは『知り合おう、全国の仲間のこと』です。宮城、東京、大阪、岡山、沖縄、福岡から60名が参加しました。

各部会の活動報告や、参加者全員による、パワーポイントを使った自動タイマーでの「自社紹介」を行いました。各社の得意な分野を知ることで、様々な連携の可能性が広がったと思います。また、福岡市の企業誘致課からの情報提供などもありました。

その後の懇親会では、中華料理を食べながら情報交換が進みました。閉会後は、皆さん、中洲での歓談やカラオケコースを楽しまれたようです。

7日(土)は早朝からゴルフコンペでした。前日は深夜まで飲んで、翌日は7時からゴルフとは、皆さん、お元気(>\_<)です。13時から表彰式を行い、14時ごろには、名残惜しく各地への帰路につきました。この出会いが、相互の技術交流、経済交流、経営者としてのパワーアップのきっかけになればと思います。

福岡IT部会は、自主運営のため、大会の企画から様々な資料準備、受付、集金から精算まで、すべて部会メンバーで行う必要がありました。このたび、念願の博多での「全国交流会」開催が実現できましたのも、東京、大阪など、多くの方々から、アドバイスや、ご支援をいただいたお陰です。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。

来年は沖縄?でお会いしましょう!



「IT部会全国交流会in博多」の様子